

市報さが SAGA



平成30年

3 | 1

MARCH
2018

No.299



明治維新
150年
地域での取り組み

偉人がつなぐ地域のチカラ

今年、明治維新から150年という節目の年。これを記念し実施される肥前さが幕末維新博覧会がいよいよ17日(土)に開幕します。

佐賀市では、地域の偉人たちにスポットを当てた「地域偉人発掘事業」を行います。この第1弾として「さがし地域偉人研修会～地域で顕彰、偉人がつなぐ地域のチカラ～」と題した研修会を行いました。



講演 「鍋島直正公と家臣たち」

徴古館 主任学芸員 富田 紘次さん

10代佐賀藩主 鍋島直正公は、17歳で藩主として佐賀に来るまでは、江戸で暮らしてしました。

現代で例えると、高校2、3年生が初めて佐賀にやってきて、藩主として藩のマネジメントに当たったわけです。それまで江戸で学んできた学問が、実践の場では容易には受け入れられませんでした。

随分と悩んだ直正公は、一時はストレスで心が病んでしまうような状態になりましたが、家臣たちの言葉に耳を傾けるうちに徐々に家臣や藩の人たちの心をつかんでいきました。

直正公は、約30年間藩主として佐賀藩を治めますが、いわゆる「名君」としての一般的によく知られている事蹟を残したのは後半期です。悪化していた藩の財政を立て直したのち、「反射炉」「精煉方」などをつくり、科学技術の振興

に力を入れたのもこの頃です。

直正公は、「憂いほどもに憂い、楽しみほどもに楽しむ」「侍、百姓、町人、一味同心」という信念を持ち、独善的にならないよう、コミュニケーションを重要視し、己の身をも削って藩政の立て直しに尽力しました。

直正公のこうした思想の根底に流れるのは、幼少のころ毎朝起きると最初に反復学習していた藩祖直茂公の教えです。

佐賀藩を見るとき、幕末だけではなく、200年前の直茂公の時代と、その背景にある「はがくれ」の思想も一緒に見る必要があります。



鍋島直正公肖像写真(鍋島報効会)



「事例発表2」 久保泉町内の遺産をピックアップ

- 久保泉公民館 館長 山田 清人さん
- プロジェクトメンバー 山田 清人さん
- 久保泉公民館 主事 手塚 偉男さん
- 手塚 偉男さん
- 智美さん

地域住民の皆さんが地元の文化遺産に触れることで郷土愛を育み、郷土に誇りを持つ人材を育成することを目的に事業に取り組みました。

まず、久保泉町内の遺産をピックアップすることから始め、「久保泉遺産 登録プロジェクト会議」の中で、遺産に登録する場所の選定、看板の設置、お宝探訪会や歩こう会スタンプラリーの実施、公民館だよりの号外発行等を行いました。



町内21カ所に設置した看板



歩こう会スタンプラリー

ピックアップされた遺産候補は285カ所にも上り、このうち21カ所に看板を設置することにしました。

歩こう会スタンプラリーやお宝探訪の参加者からは、「身近に歴史を感じることができた」「久保泉の歴史をもっと知りたい」「看板がわかりやすい」という声が聞かれました。

今回の成果を後世に残し伝えていくために、冊子などの作成に取り組んでいきたいと思えます。



「事例発表1」 明治維新150年事業の意義と意味

川上校区公民館 館長 末次 暉壽さん

明治維新150年事業は、公民館にとっても最適の教材であります。川上校区では、2つの目的で事業に取り組みました。

1つ目は、幕末維新期の偉人・偉業を地域に広め、自分を高める教材にしたいと共々郷土愛を育むこと。

2つ目は、参加した地域の小学生が、この事業で何らかの役割を担ってもらい、次世代に確実に繋いでいくことです。



大久保台場(大和町川上)

今回取り上げたのは、永山貞武(古賀穀堂と共に藩政改革に尽力)、伊東次兵衛(失業した武士の救済などに尽力)、太田蔵人(蟄居後、農業の振興に尽力)、今泉蟬守(「佐賀の歌仙」・文化振興に尽力)の4人の偉人。また偉業として、大久保台場(カノン砲などの実用化と藩兵の砲術訓練)を取り上げました。



今泉家と健福寺に保存されている蟬守直筆の短冊



「世界を見ていた佐賀の人」 「佐賀に縁ある女たち」

郷土史研究家 南里 早智子さん
郷土史研究家 末岡 暁美さん

明治維新150年のキャッチフレーズ「そのとき佐賀は世界を見ていた」に対して、「世界を見てきた佐賀人は誰か?」「佐賀に縁ある女性はいないのか?」という疑問に答える展示が行われます。

「世界を見ていた佐賀の人」では、1860年に幕府の使節としてアメリカにわたった佐賀人、1862年に幕府の条約交渉のためヨーロッパに渡った佐賀人等、明治改元の1868年以前に世界を見てきた佐賀人にスポットを当てて人物紹介をされます。

また「佐賀に縁ある女たち」では、幕末から明治生まれの佐賀に縁のある女性の中で、黒田チカ、クレーデンホーフ光子、石井筆子、鐘ヶ江録子、大橋リユフ、江木欣々、日下部米鶴という7人を取り上げて、彼女たちのさ



南里邸

さまざまな活動と国の近代化に与えた影響等が紹介されます。この展示会は、郷土史研究家の南里早智子さんと末岡暁美さんが、明治維新のころに活躍した、まだまだ知られていない佐賀の人々のことを子どもたちにも理解できるように展示で伝えたいと企画されたものです。

3月17日(土)から10月21日(日)までの月曜、土曜、日曜、祝日の10時から17時まで、佐賀市柳町の南里邸(佐賀市景観指定重要建造物)で行われます。



佐賀の七賢人

